

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873100937		
法人名	有限会社 美野里メディカルサービス		
事業所名	グループホーム つつじ	ユニット名(東館)	
所在地	〒311-3153 茨城県東茨城郡茨城町上飯沼2-278		
自己評価作成日	令和 5年 10月 18日	評価結果市町村受理日	令和 6年 1月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kihon=true&JijyosyoCd=0873100937-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスミとビル4階
訪問調査日	令和5年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・家庭的な雰囲気の中で、目配り、気配りを忘れずに、ゆったりとその人らしく穏やかな毎を送れる様支援しております。</p> <p>・入居者様の身体的レベル低下も顕著であり、日常生活の援助に時間がかかるようになってきましたが、出来る限り本人の残存能力を生かせる様、ゆっくりとした日常生活の時間の流れの中で、個々のペースに合わせた支援を行っております。</p> <p>・感染症対策をしながら、ご家族様との対面での面会を実施しており、ご家族様との繋がりが途切れる事のない様に、支援を行っております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は幹線道路に面しているが、自然豊かな場所に位置して広い敷地を有し利用者は四季を感じながら過ごす事が出来る。職員は利用者が家族と過ごしている様な事業所でありたいと「利用者が笑顔で過ごせる様に声掛けを大切に思いやりと優しさの介護」を理念に掲げ利用者の行動制限をせずできる事はやって頂く支援を実践している。運営母体が医療機関で有る事で健康管理や緊急時には24時間搬送体制が確立されている事や、防災に関しては事業所内での訓練の他消防署に出向き図面上でも指導を受けたり、3ユニットは廻廊で繋がる平屋建で広い中庭に面し居室から自由に出られる設計で、家族等や職員の安心に繋がっている。玄関前や共有空間には花や観葉植物で季節感を出している。ユニット毎に楽しさが伝わるクリスマス飾りや、玄関には等身大の椅子に座った人形や犬が配置され、利用者は基より訪問者が笑顔になるような雰囲気の事業所です。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関と職員の目につくホール内に掲示し、理念の共有に取り組んでいる。	玄関やユニットに掲示し、朝礼時やミーティングなどで共有している。家庭的な雰囲気づくりをし、家族の一員と思えるような声掛けをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の影響により、交流が極端に減っている。感染状況を見ながら可能な限り交流の場を増やしていきたい。	地域の人が野菜を届けてくれたり、近くのコンビニエンスストアの店長が情報をくれたり運営推進会議にも参加してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症対策の為、外部との接触を控えている為、十分な地域貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度、少人数ではあるが、運営推進会議を開催しており、事業所報告をしている。その際、意見を頂いたり相談へのアドバイスを頂いている。	家族等の代表や市職員、近隣住民等が参加して定期的開催している。身体拘束について話し合ったり、防災訓練の結果を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉協議会や地域包括支援センターを通じて、必要な時には市の担当者との話し合いを行い、協力頂いている。	入居者の報告をしたり、法改正時など分からない事や困りごとを相談している。生活保護受給者には福祉相談センター職員の訪問がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、利用者様の安全確保の為、ご家族様の同意を得て玄関施錠している。但し、中庭への散歩や面会時等は玄関の施錠を一時的に解除する取り組みは行っている。	身体拘束排除のための委員会を設置している。見守りを重視し、声掛けを行い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。職員は資料やDVDを見て研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年二回の内部研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会がないのが現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、書面に沿って理解を得られる十分な説明を行っている。問い合わせ等があれば、その都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様から希望や思いを聞き、対応出来る事は実施している。	家族等からの意見や要望を電話や来訪時に聞いている。意見や苦情を受けた後の解決に向けた手順が決まっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時に、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。	日ごろから話しやすい雰囲気づくりに努めている。職員は気付いたことは何でも話をしている。設備の改善などは上司に伝えてすぐに対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休や、子育て中の職員の勤務時間の調整、学校行事等の休みに合わせて、休暇取得出来る様配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修等は参加出来ないが、外部研修等は参加出来る様勤務の調整を図り、出来るだけ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍も落ち着き、少しずつではあるが外部研修に参加する事が出来ている。研修にて他の事業所の方と情報交換が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、環境変化や本人の戸惑いを理解し、ご自身のペースで施設に慣れて頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時に、ご家族様の困っていることや要望等を聞き関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の話を聴き、必要としているサービスを見極められる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の身体レベルの低下により、掃除等一緒に行く機会は少なくなってきたが、新聞折りや洗濯物畳み等、日常生活の中で関われる小さな事でも、出来る事は依頼したり職員と一緒に行動して、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時には、施設での生活状況や問題点等、報告・相談しており、共に支えていく関係性作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策の為、外出は出来ないが、施設に来所して下さる事によって、短時間ではあるが面会の実施が出来、関係が途切れない様努めている。	面会には家族等や友人が来ている。受診の帰りになじみの場所によるなどしている。利用者の生活歴や趣味、嗜好等の記録がされるまでには至っていない。	その人らしい個別支援を実施する為にも、利用者の生活歴や趣味等記載するフェイスシートの作成を期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握した上で、ホール内の座席や食卓テーブルの配置等への工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、以前と変わらず、相談等を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中から、本人の思いや意向の把握に努めている。	利用者の思いを理解するために、色々と試して職員で話し合い、表情等を参考に利用者が喜ぶような支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人との会話の中から、これまでの暮らし方や生活環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、個人ケース記録に記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向やご家族の思い、日常の状態を把握して介護計画を作成している。半年後のモニタリングを実施しながら、本人の現状の把握に努め介護計画を作成している。	計画作成担当者はそれぞれの関係者から意見を聞き作成している。毎月モニタリングを行い基本1年で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事をケース記録等に記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族様の状況変化に応じて、柔軟な対応が出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策の為、地域の方やボランティアの受け入れは行わなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と相談の上、主治医とする医療機関を決めて頂いている。	在宅時からのかかりつけ医への受診の支援をしている。協力病院とは24時間体制で受信可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護職といつでも相談等が出来る様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院が出来る様、協力病院との連絡を取り合い、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に記載し、同意を得ている。	看取りは行わない事業所であるが、指針に看取りを実施するような記載がある。ターミナルケアの考え方について説明をし、同意を得ている。	看取りを実施しない事が分かる指針を作成し、重度化や看取りに関する研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施している。年1回は消防署立ち合いにて実施。その他、消防署員への相談を行ったり、図上訓練を実施している。	火災以外にも様々な災害を想定した訓練を行っている。利用者の避難確認は1回で済むように確認書を利用し、利用者の避難短縮になるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な言葉かけや対応で、利用者様個人の尊厳を守り、誇りやプライバシーを傷つけることなく接する事を大切にしている。	利用者の人格を尊重し、自尊心やプライバシーに配慮した声掛けを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を作る様心がけている。利用者様と一緒に談笑しながら、リラックス出来る様働きかけ、利用者様が、少しでも多く自分の思いを表して下さる様な関係が保てる様		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、個々に合わせた起床時間や食事時間、入浴等、出来る限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては、病院受診等外出の際には、本人が好み物や綺麗な洋服に着替えて外出出来る様にしている。2カ月に一度、訪問理容で、好きな髪型等が維持出来る様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な環境を提供するにあたり、利用者と職員と一緒に食事を摂っている。	利用者の好みのものを常に準備している。近所から野菜の差し入れがあり献立に取り入れている。行事食は利用者の希望を取り入れている。手作りおやつを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎日記録に残し、必要な栄養、水分の確保が出来る様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、事前準備、誘導を行い、自分で出来る方は自分で行って頂き、出来ない方は介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄パターンを把握し、トイレ誘導等を行っている。但し、立位不可の為、トイレの訴えはあるが誘導出来ない方もいるのが現状である。	時間を決めてのトイレ誘導や利用者の仕草を察知してのトイレ誘導で排泄の自立を支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表にて、排便の有無を確認する様にしている。また、便秘気味の方には、主治医への報告や受診の対応をする様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の希望により、他ユニットでも入浴日以外に入浴出来る様支援している。	好みのボディソープやシャンプーを利用している利用者もいる。楽しい入浴となる様に浴剤を使用したり、菖蒲湯やゆず湯にて季節感を出している。一番風呂を希望する利用者の希望を聞き、ローテーションを考えて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調やペースに合わせて休息出来る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書にて、副作用を理解している。また、症状等に变化があれば外来受診時や訪問診療時に医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の心身の状態に合わせた安息時間を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って外出する事は出来ていない。コロナも落ち着いてきたので、本人の希望により外出出来る様、ご家族様と連携を図っていきたいと思っている。	車での外出は無いが、広い敷地内を散歩したり近くのコンビニエンスストアに買い物に出かけている。春や秋の花見には家族等にも協力を得て、法人の車両で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理はご家族様が行っている。本人の意向をご家族に伝えたり、希望があれば買い物の代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、ご家族様に、ご本人の顔写真をプリントして、ご本人のお名前でご年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に換気を行い、室温調整を行うようにしている。また、季節に合った飾りをホール内や廊下に飾っている。	玄関前や中に季節の花や植物が配置され、事業所全体が清潔に保たれ廊下なども広い。温度や湿度も管理され、天窓からの採光も自然な明るさで快適に過ごす事が出来る。小上がりの畳では利用者が洗濯物を畳んだり寛いだりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が良好な関係を継続出来る様な、座席配置への配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、なるべく使いなれた物を持って来て頂き、本人がこれまで生活してきた環境に少しでも近づけるようにしている。	管理者は火災につながるような物品と危険物以外は使い慣れた物を何でも持ち込むように説明している。居室は中庭に面して掃き出しの窓になっていて、外に出やすくなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりが設置しており、安全で自立した生活が出来る様に工夫している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームつつじ

作成日 令和 6年 1月 22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	20	生活歴や趣味、嗜好等の記録が不十分。一目で理解出来る様式の作成が必要である。	全職員がその人への理解を深め、今後の個別支援の実施に繋げていく。	フェイスシートの作成	作成済
2	33	看取りをしない事業所であると掲げているにも関わらず、事業所で出来る事を記載してしまっていた為、分かりづらくなっている。	看取りは行わない事業所である事を明確に記載する。今後ともご家族様に対して、十分な説明を行っていく。	看取りを実施しない事が分かる様、書類を作成する。重度化や看取りに関する研修を実施する。	書類作成済 研修については2月中に開催予定

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。